

## 1

$\alpha > 1, r > 1$  に対して,  $a_1 = \alpha$ , 公比  $r$  の等比数列  $\{a_n\}$  の一般項は,

$$a_n = \alpha \cdot r^{n-1} \quad (n=1, 2, 3, \dots) \quad \cdots \textcircled{A}$$

また,

$$b_n = \log_{a_n}(a_{n+1}) \quad (n=1, 2, 3, \dots) \quad \cdots \textcircled{B}$$

(1) ②の底を変換して,

$$b_n = \frac{\log_\alpha(a_{n+1})}{\log_\alpha(a_n)}$$

さらに, ④を用いて,

$$b_n = \frac{\log_\alpha(\alpha \cdot r^n)}{\log_\alpha(\alpha \cdot r^{n-1})}$$

ここで,

$$\log_\alpha(\alpha \cdot r^n) = \log_\alpha \alpha + n \log_\alpha r = 1 + n \log_\alpha r$$

$$\log_\alpha(\alpha \cdot r^{n-1}) = \log_\alpha \alpha + (n-1) \log_\alpha r = 1 + (n-1) \log_\alpha r$$

なので,

$$b_n = \frac{1 + n \log_\alpha r}{1 + (n-1) \log_\alpha r} \quad \cdots (\text{答})$$

(2) (1)より,  $b_n = \frac{n+2}{n+1}$  となる条件は,

$$\frac{1 + n \log_\alpha r}{1 + (n-1) \log_\alpha r} = \frac{n+2}{n+1} \quad \cdots \star$$

いま,  $\star$ がすべての自然数  $n$  で成り立つとき,  $n=1$  でも成り立つ. すなわち,

$$1 + \log_\alpha r = \frac{3}{2}$$

$$\therefore \log_\alpha r = \frac{1}{2} \quad \cdots \star$$

が必要. このとき,

$$(\star \text{の左辺}) = \frac{1 + n \cdot \frac{1}{2}}{1 + (n-1) \cdot \frac{1}{2}} = \frac{\frac{n}{2} + 1}{\frac{n-1}{2} + 1} = \frac{n+2}{n+1}$$

となり,  $\star$ はすべての自然数  $n$  で成り立つといえる.

以上より, 求める必要十分条件は,  $\star$ となり,

$$r = \alpha^{\frac{1}{2}} \quad \cdots (\text{答})$$

(3) (2)と④より,

$$a_n = \alpha \cdot \left(\alpha^{\frac{1}{2}}\right)^{n-1} = \alpha^{\frac{n+1}{2}} \quad (n=1, 2, 3, \dots)$$

したがって,

$$a_1 a_2 = \alpha^1 \alpha^{\frac{3}{2}} = \alpha^{\frac{5}{2}}$$

$$a_1 a_2 a_3 = \alpha^1 \alpha^{\frac{3}{2}} \alpha^2 = \alpha^{\frac{9}{2}}$$

$$a_1 a_2 a_3 a_4 = \alpha^1 \alpha^{\frac{3}{2}} \alpha^2 \alpha^{\frac{5}{2}} = \alpha^7$$

なので, それぞれの整数部分の桁数が 2, 3, 4 となる条件は,

$$\begin{cases} 10 \leq \alpha^{\frac{5}{2}} < 10^2 & \cdots \textcircled{1} \\ 10^2 \leq \alpha^{\frac{9}{2}} < 10^3 & \cdots \textcircled{2} \\ 10^3 \leq \alpha^7 < 10^4 & \cdots \textcircled{3} \end{cases}$$

をすべて満たすこと. いま,

$$\textcircled{1} \Leftrightarrow 10^5 \leq \alpha < 10^5$$

$$\textcircled{2} \Leftrightarrow 10^9 \leq \alpha < 10^3$$

$$\textcircled{3} \Leftrightarrow 10^7 \leq \alpha < 10^7$$

ここで,

$$\frac{2}{5} = \frac{12}{30} < \frac{3}{7} = \frac{12}{28} < \frac{4}{9} = \frac{12}{27}$$

$$\frac{4}{7} < \frac{2}{3} = \frac{4}{6} < \frac{4}{5}$$

なので, ①②③をすべて満たす  $\alpha$  の範囲は,

$$10^9 \leq \alpha < 10^7 \quad \cdots (\text{答})$$

## 2

$C_1 : x^2 + y^2 = 1$ ,  $P(p, q)$ について,

$$p^2 + q^2 > 1$$

より、点  $P$  は、つねに円  $C_1$  の外部にある。  
このとき、 $C_1$ ,  $l_1$ ,  $l_2$  および  $P$ ,  $Q_1$ ,  $Q_2$  は  
右のようになる。

(1)  $\triangle OPQ_1$ について,

$$OP = \sqrt{p^2 + q^2}$$

$$OQ_1 = 1 \quad (\text{円 } C_1 \text{ の半径})$$

また、 $\triangle OPQ_1$  は、

$$\angle OQ_1 P = \frac{\pi}{2}$$

の直角三角形なので、

$$Q_1 P = \sqrt{OP^2 - OQ_1^2} = \sqrt{p^2 + q^2 - 1}$$

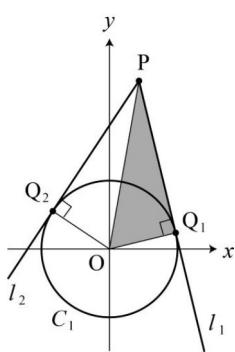
よって、 $\triangle OPQ_1$  の面積  $T$  は、

$$T = \frac{1}{2} \cdot OQ_1 \cdot Q_1 P = \frac{\sqrt{p^2 + q^2 - 1}}{2}$$

また、同様に考えて、 $\triangle OPQ_2$  の面積も  $T$  と一致する。

このとき、四角形  $OQ_1 PQ_2$  の面積  $S$  は、

$$S = 2T = \sqrt{p^2 + q^2 - 1} \quad \dots(\text{答})$$



(2)  $P(p, q)$  が椭円  $C_2 : \frac{x^2}{2} + \frac{y^2}{3} = 1$  上を動くとき、

$$(p, q) = (\sqrt{2} \cos \theta, \sqrt{3} \sin \theta) \quad (0 \leq \theta < 2\pi)$$

とおける。このとき、

$$\begin{aligned} p^2 + q^2 &= 2 \cos^2 \theta + 3 \sin^2 \theta \\ &= 2(1 - \sin^2 \theta) + 3 \sin^2 \theta \\ &= 2 + \sin^2 \theta \quad \dots \star \end{aligned}$$

となり、

$$p^2 + q^2 > 1$$

を満たす。よって、(1)を用いて、

$$S = \sqrt{p^2 + q^2 - 1}$$

とかけて、★より、

$$S = \sqrt{1 + \sin^2 \theta}$$

となる。よって、求める最大値、最小値は、

$$\begin{cases} \text{最大値: } \sin \theta = \pm 1 \text{ のとき, } \sqrt{2} \\ \text{最小値: } \sin \theta = 0 \text{ のとき, } 1 \end{cases} \quad \dots(\text{答})$$

なお、 $P(p, q)$  が  $C_2$  上を動くとき、 $\frac{p^2}{2} + \frac{q^2}{3} = 1$  をみたすので、

$$p^2 = 2 - \frac{2}{3}q^2$$

とできて、

$$p^2 + q^2 = 2 + \frac{1}{3}q^2 > 1$$

といえる。このとき、 $p^2 \geq 0$  より、

$$2 - \frac{2}{3}q^2 \geq 0$$

$$\therefore -\sqrt{3} \leq q \leq \sqrt{3}$$

であり、

$$S = \sqrt{p^2 + q^2 - 1} = \sqrt{1 + \frac{1}{3}q^2}$$

ここから、 $S$  の最大値、最小値を考えることもできる。

## 3

実数  $a$  に対して,

$$I(a, n) = \int_0^{2\pi} e^{ax} \sin(nx) dx \quad (n=1, 2, 3, \dots)$$

を考える.

(1) 部分積分を繰り返し用いて,

$$\begin{aligned} I(a, n) &= \left[ e^{ax} \left\{ -\frac{1}{n} \cos(nx) \right\} \right]_0^{2\pi} - \int_0^{2\pi} ae^{ax} \left\{ -\frac{1}{n} \cos(nx) \right\} dx \\ &= \frac{1-e^{2a\pi}}{n} + \frac{a}{n} \int_0^{2\pi} e^{ax} \cos(nx) dx \\ &= \frac{1-e^{2a\pi}}{n} + \frac{a}{n} \left\{ \left[ e^{ax} \cdot \frac{1}{n} \sin(nx) \right]_0^{2\pi} - \int_0^{2\pi} ae^{ax} \cdot \frac{1}{n} \sin(nx) dx \right\} \\ &= \frac{1-e^{2a\pi}}{n} + \frac{a}{n} \left\{ 0 - \frac{a}{n} \int_0^{2\pi} e^{ax} \sin(nx) dx \right\} \\ &= \frac{1-e^{2a\pi}}{n} - \frac{a^2}{n^2} \int_0^{2\pi} e^{ax} \sin(nx) dx \\ &= \frac{1-e^{2a\pi}}{n} - \frac{a^2}{n^2} I(a, n) \end{aligned}$$

が成り立つ. これより,

$$I(a, n) = \frac{1-e^{2a\pi}}{n} - \frac{a^2}{n^2} I(a, n)$$

$$\therefore \frac{n^2 + a^2}{n^2} I(a, n) = \frac{1-e^{2a\pi}}{n}$$

よって,

$$I(a, n) = \frac{n(1-e^{2a\pi})}{n^2 + a^2} \quad \cdots (\text{答})$$

(2) (1)より,

$$I(a_n, n) = \frac{n(1-e^{2a_n\pi})}{n^2 + a_n^2}$$

いま,  $a_n = \frac{\log n}{2\pi}$  ( $n=1, 2, 3, \dots$ ) なので,

$$e^{2a_n\pi} = e^{\log n} = n$$

したがって,

$$I(a_n, n) = \frac{n(1-n)}{n^2 + \left(\frac{\log n}{2\pi}\right)^2} = \frac{\frac{1}{n}-1}{1 + \frac{1}{4\pi^2} \left(\frac{\log n}{n}\right)^2}$$

とかけるので,  $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\log n}{n} = 0$  も利用して,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} I(a_n, n) = \frac{0-1}{1 + \frac{1}{4\pi^2} \cdot 0^2} = -1 \quad \cdots (\text{答})$$

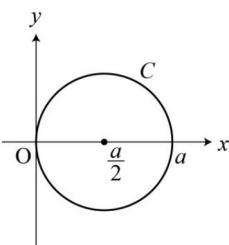
## 4

$$a > 0 \quad \cdots \star$$

(1) ★,  $a \neq 1$  のとき,

$$\begin{aligned} a|z-1| &= |(a-2)z+a| \\ \Leftrightarrow a^2|z-1|^2 &= |(a-2)z+a|^2 \\ \Leftrightarrow a^2(z-1)(\bar{z}-1) &= \{(a-2)z+a\}\{(a-2)\bar{z}+a\} \\ \Leftrightarrow a^2(z\bar{z}-z-\bar{z}+1) &= (a-2)^2z\bar{z}+a(a-2)z+a(a-2)\bar{z}+a^2 \\ \Leftrightarrow (4a-4)z\bar{z}-2(a^2-2a)z-(2a^2-2a)\bar{z} &= 0 \\ \Leftrightarrow z\bar{z}-\frac{a}{2}z-\frac{a}{2}\bar{z} &= 0 \\ \Leftrightarrow \left(z-\frac{a}{2}\right)\left(\bar{z}-\frac{a}{2}\right) &= \frac{a^2}{4} \\ \Leftrightarrow \left|z-\frac{a}{2}\right|^2 &= \frac{a^2}{4} \end{aligned}$$

とできるから、★,  $a \neq 1$  のとき、  
求める  $z$  全体の集合は、右のような  
中心  $\frac{a}{2}$ , 半径  $\frac{a}{2}$   
の円  $C$  となる。



(解答終り)

$$(2) \quad \begin{cases} |z|^2 = 6-a & \cdots ① \\ |a|z-1|=|(a-2)z+a| & \cdots ② \end{cases}$$

について、

(ア)  $a=1$  のとき、

①かつ②は、

$$\begin{cases} |z|^2 = 5 & \cdots ③ \\ |z-1|=|-z+1| & \cdots ④ \end{cases}$$

となり、③は、

原点  $O$  を中心とする半径  $\sqrt{5}$  の円  
を表す。また、④は、任意の複素数  $z$  で成り立ち、  
複素数平面上のすべての点

を表す。

したがって、③かつ④を満たす複素数  $z$  は存在する。(イ)  $a \neq 1$  のとき、

②は、

(1)の円  $C$ を表す。また、①を満たす複素数  $z$  は、

$$a \leq 6$$

のとき存在し、

原点  $O$  を中心とする半径  $\sqrt{6-a}$  の円  $D$   
あるいは  
原点  $O$

を表す。よって、①かつ②  
を満たす複素数  $z$  が存在す  
る条件は、 $a \leq 6$  のもとで、  
①②が表す図形が共有点  
をもつ条件を考えて、

$$\sqrt{6-a} \leq a$$

いま、★も考えて、両辺とも  
0 以上なので、2乗して、

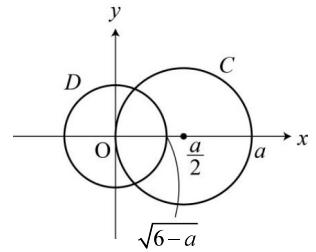
$$6-a \leq a^2$$

$$\therefore (a+3)(a-2) \geq 0$$

となり、★,  $a \leq 6$  も考えて、  
 $2 \leq a \leq 6$

以上より、求める  $a$  の範囲は、

$$a=1, 2 \leq a \leq 6 \quad \cdots (\text{答})$$



## 5

$n$  は 3 以上の整数  $\cdots \star$

(1) 整数  $k$  に対して,

$$k < a < b < c \leq k+n$$

を満たす整数  $a, b, c$  の選び方は,

$$k+1, k+2, \dots, k+n$$

の異なる  $n$  個の整数から, 3 個を選び, 小さい順に  $a, b, c$  とするような場合の数と等しく,

$${}_n C_3 = \frac{n(n-1)(n-2)}{6} \text{ (通り) } \cdots \text{ (答)}$$

(2)  $1 \leq a < b < c \leq 2n \cdots ①$

$$a+b > c \cdots ②$$

として, ①かつ②を満たす整数  $a, b, c$  の選び方  $L$  を考える.

(ア)  $a > n$  のとき,

$$n < a < b < c \leq 2n$$

となる整数  $a, b, c$  の選び方は, (1)より,

$${}_n C_3 \text{ (通り)}$$

あり, この  ${}_n C_3$  (通り) はいずれも①を満たす. さらに,

$$a > n, \quad b > n+1$$

なので,

$$a+b > 2n+1$$

また,  $c \leq 2n$  なので,

$$a+b > c$$

すなわち②を満たす.

(イ)  $a \leq n$  のとき,

$$(a, b, c) = (2, 3, 4)$$

は,  $\star$  より, ①を満たす. また, ②も満たす.

以上より, ①かつ②を満たす整数  $a, b, c$  の選び方は, 少なくとも  ${}_n C_3 + 1$  (通り) あるといえ,  $L > {}_n C_3$  は示される.

(証明終り)